A 31　共働き夫婦における第一子出生後の役割関係

青葉学園短大　長津美代子

目的…共働き夫婦にとって、子供の誕生はひとつの危機的状況ととらえられる。彼らは、夫あるいは妻役割、職業役割に加えて、親役割も遂行しなければならない。夫婦だけの時期の役割関係は、再調整をせまられる。本研究では、第一子出生以前、出生直後、そして現在の三時点での役割関係の比較を通して、共働き夫婦における伝統的な性別分業の変化と持続を明らかにする。　方法…役割関係を把握する指標のうち、夫の身の回りのこと（外出の準備、衣類の片づけ等5項目）と家事（掃除、洗濯、料理、食後の片づけ）については、三時点の分担状況を尋ねた。子供の世話は、第一子が零歳の頃（おしめ、授乳、入浴等）と現在（遊ぶ、しつけ、入浴等）に分けて聞いた。また、夫に対しては、ほほえみかける、あやす、抱くなどの表出的な養育行動を第一子が零歳の頃どの程度とったかについても尋ねた。　対象…都内にある18の区立保育園に在籍する1・2歳児の父母480組が対象。回収率75%。母子家庭、夫妻票がそろっていない、回答不十分等のケースを除く286組（58%）を分析した。核家族が9割以上で、夫妻とも30代が最も多い。家族員数は4人、子の数は2人が最も多い。第一子の年齢は5歳以下が55%。妻の就業形態は、常雇が54%で最も多く、以下パート、家族従業の順である。

結果…①夫自身の身の回りのことと家事分担についての三時点の変化はあまりなく、夫婦だけの時期に形成された役割関係のパターンは、子供誕生後も大きくは変化しない。②子供の世話に対する夫の参加は、家事の場合より多く、表出的養育行動もよく行われている。③妻が教師等の専門職の夫は、いずれの領域においても参加度が高く、伝統的な性別分業の改訂がみられる。